



## 1. 学校・市町村概要

- 教育目標：「自分」を育てる
- 所在地：広島県呉市西中央4丁目10-52
- 児童生徒数（H29.5.1時点）

学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒数	89	109	115	106	94	89	18	620	79	93	87	10	269	889
学級数	3	4	3	3	3	3	4	23	2	3	3	2	10	33

- 呉市概要：〔人口〕229,868人 〔学校数〕小学校36校, 中学校26校

## 2. 導入経緯

- ・平成12年度 現在の呉中央学園(呉中央中学校区)が小中連携の研究開発学校に指定(文部省)
- ・平成16年度 小中連携の研究成果を文部科学省に報告
- ・平成19年度 呉市内の全中学校区において小中一貫教育を導入・実施

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 「資質・能力」の育成を目指す小中一貫教育

### 形態・施設

- 施設一体型

- 前期棟(小1~小4), 中期棟(小5~中1), 後期棟(中2~中3)
- 小学校・中学校同一の職員室
- 特別教室(図書室, 調理室等)は小・中学校共通のものを設置



### 教職員体制

- 校長:各校に配置 ● 教職員:一部教職員に兼務発令 ● 小中一貫教育推進コーディネーター:指名あり

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例:実施なし ● 区切り:4-3-2
- 行事:「二分の一成人式」(第4学年), 「立志式」(第7学年), 第1学年の世話(前期リーダーとして第4学年が実施), 期末試験の実施(第5学年・第6学年)

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制:一部教科担任制(第5学年から理科, 音楽科, 体育科, 家庭科)
- 相互乗り入れ:小学校教員が中学校の特別活動に乗り入れ  
中学校教員が小学校の国語科, 算数科, 音楽科, 体育科, 外国語活動に乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流

[▶ 次頁へ](#)

- 「3・8交流」:第8学年が第3学年に自分たちの地域を案内(総合的な学習の時間)
- 「4・9交流」:第9学年が第4学年を対象とした講座を開催(総合的な学習の時間)
- 「5・7交流」:第7学年が第5学年に新聞作りや発表方法の手本を見せる。(総合的な学習の時間)
- 「校内探検」:第2学年が第1学年を案内(生活科)
- 縦割り掃除:第5学年・第6学年・第7学年

### 市町村教育委員会等による支援

- 小中一貫教育推進コーディネーター研修の実施(小中一貫教育推進コーディネーター対象)
- 「学びの革新」推進研修会の実施(教務主任・研究主任対象)
- ブロック別学校経営研修会の実施(管理職対象)
- 小中一貫教育実践事例集の作成
- 小中一貫教育研究指定校事業の実施(補助金交付)

異学年交流により社会性やリーダーシップを育成することができる、十分な集団規模を確保して教育活動を行うことができるなどの効果が期待されます。しかし、教育的な意義のある活動となるよう、ねらいを明確に意識して取り組むことが必要です。また、目指すねらいの達成に向けて、どのような活動をどの学年や集団において行うことが効果的かを検討し、交流活動の内容や交流範囲を決めることが必要です。

呉中央学園では、主に総合的な学習の時間(夢チャレンジの時間)において異学年交流活動をねらいを明確にして計画的に実施しています。

● 総合的な学習の時間の取組

総合的な学習の時間では、「夢チャレンジの時間」として、9年間を通して系統化された学習内容にしています。学びたいことを異学年集団で教わったり教えたりする活動を通して、自分のよさを見付け、夢や目標を持って生きようとする態度など自己の生き方を追究する力や望ましい人間関係をつくりだす力を育成することをねらっています。

● 3・8交流「校区ふしぎ発見」



校区内をフィールドワークする活動を異学年で行っています。8年生は、3年生のために働こうとする気持ちを持ち、グループリーダーとして手本・見本となることを目指し、3年生は、自分の思いを8年生にはっきり伝えることを目指しています。

● 4・9交流「よる4・9先輩の会」



9年生は、4年生の目標達成に向けて自ら貢献することを通して、自己存在感を実感することを、4年生は、自らの目標に向かって努力することで自己の成長に気付くことを目指しています。

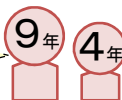
● 5・7交流「職場体験発表会」



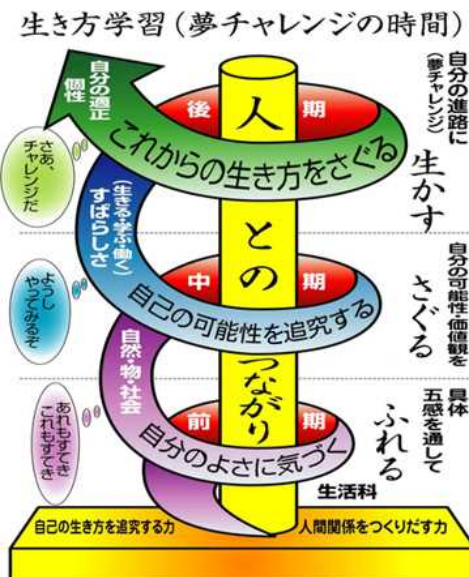
7年生は5年生に分かりやすく説明することで、先輩としての自覚を持ち、職場体験における学習を深めることを、5年生は自身の職場訪問に7年生からの学びを生かすことをねらっています。

例えば、「4・9交流」の最後の感想(抜粋)には、異学年での関わりから自分を深く見つめた表れが見られます。

私たちが4年生のとき9年生の人たちに、お世話になったことを思い出しました。少し恩返しできた気持ちになりました。



9年生になるとき、同じやさしい9年生になりたい。



5. これまでの成果と課題、今後の取組

「自分が、周りの人から認められていると思いますか」のアンケートでは、異学年交流の事前と事後を比較すると、「思わない」と回答した割合が減少していることが分かります。異学年交流は、特に中期・後期の落ち込んだ自尊感情の回復に効果があることが、本校の研究の中で確認できています。

[参考] 自分が周りの人(家族や友達)から認められていると思いますか

